

特集 企業誘致

新卒者の就職難や企業の業績悪化によるリストラなど、厳しい雇用状況が続いています。

私たちが「働く」とき、そこには経済的な意味はもちろん、社会参加や生きがいといった内面的なものまで、さまざまな意味を持つのではないのでしょうか。人は働くことによって元気になり、その人たちによって地域の活気も生まれます。

土岐市は「強いまちづくり」を目指しています。強いまちであるためには、経済力の強化は欠かせません。今回の特集は、市が進める企業誘致を取り上げました。

☒ 産業振興課企業立地係（内線232）

このまちが、ずっと元気であるために

戦略 経済

人口と経済の関係

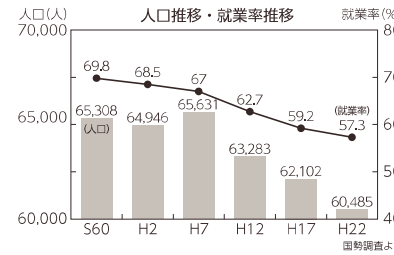
土岐市の人口は、昭和61年まで増加し、平成8年の6万6621人をピークに減少に転じました。市内の15歳以上人口のうち、就業者が占める割合を示す就業率も減少傾向が続いています。これまで、土岐市は陶磁器産業を市の基幹産業として発展してきました。しかし、市の経済を支えてきた陶磁器業界は、長引く景気の低迷や海外製品との競合などが影響し、経営の縮小や従業員削減などを余儀なくされてきました。

今後、高齢化はさらに進行します。働く世代の減少も見込まれるため、おのずと就業率も低下していきます。人口が減ること地域経済が縮小し、活力を無くした地域は、

ここで働き、
ここで暮らす。

企業誘致と定住促進

さらに人口が減る。こうしたマイナスの流れは食い止めなければなりません。活力のある「まち」を維持し、発展させていくためには、地域経済の活性化につながる、安定した雇用場の確保が課題になります。



雇用の創出と定住人口の増加

地方の時代といわれて久しくなりませんが、同時に地方は自立も求められることになりました。自分たちのまちを住みよい元氣なまちにするために、地域経済の基盤強化を欠かすことはできません。市が平成22年に行った市民アンケートでは、重要度の高い問題の一つとして、雇用環境の充実が挙げられました。市では、主要課題として、産業基盤の充実したまちづくりを掲げています。市の基幹産業である陶磁器産業と、その他の産業とのバランスの取れた発展と雇用拡大を目指す。市内立地企業には優遇措置を用意するほか、市内に転入する方を対象に、定住促進奨励

金を交付する制度などを実施しています。

強みを生かす

企業誘致の取り組みは土岐市だけではありません。まさに誘致合戦ともいえる中、土岐市の強みは「地の利」にあります。平成17年に開通した東海環状自動車道は、愛知県三河地域とのアクセスを劇的に改善し、中央自動車道や国道19号・21号との相乗効果もあり、広域交通アクセス網に恵まれた環境が整いました。さらに、地震に対する強さもあります。岐阜県が平成9年に行った調査によると、東濃地域は過去の地震史料でも内陸直下型地震の発生記録はほとんどなく、太平洋沿岸の巨大地震の震源域からも距離が有ります。また強い地盤に覆われていることから、大きな地震被害の可能性は小さく、危機管理の面からもメリットがあります。事実、地震に対する強さを理由に進出を決めた企業もありません。強く、元気で、やさしいまちであるために、これからも企業誘致を進めていきます。

定住促進事業

定住人口の増加を図るため、定住を目的とした住宅を取得する方のうち、条件を満たす方に、定住促進奨励金を交付します。(奨励金の額)
新築住宅 >> 30万円
中古住宅 >> 15万円

立地企業への優遇措置

固定資産税の特例	・工場生産設備を新設・増設した事業者に、3年間、固定資産税の税率を低減します。 ・製造業・物流関連事業者の対象資産について、3年間、固定資産税の課税を免除します。
事業所設置奨励金	・投下固定資産に対する前年度の固定資産税・都市計画税納付額相当を、5年間交付します(ただし、4年目・5年目は1/2)。
雇用促進奨励金	・新たに常時雇用し1年以上市内に居住する従業員1人につき15万円の奨励金を1年度支給します。

近年開発された工業団地と新規立地企業

土岐アクアシルヴァ

豊生ブレーキ工業株式会社(平成20年9月稼働)
自動車ブレーキの専門メーカー。トヨタ車のほとんどが同社製のブレーキを採用している。

株式会社アマダマシンツール
株式会社アマダ土岐事業所(平成23年10月稼働)
金属加工機械の総合メーカー。工場は太陽光発電やLED照明を使用したオール電化工場。

二明精機株式会社(平成23年10月稼働)
鋳造および機械加工を手掛ける。繊維機械部品の糸巻きドラムでは、世界シェア25%を占める。

株式会社アドマテックス(平成24年10月稼働予定)
薄型半導体など最先端の工業製品向けに真球状セラミック微粒子を製造販売。高い技術力で幅広い分野に材料を供給している。

土岐プレミアムアウトレット

ココ・コーラ セントラルジャパン株式会社(平成20年6月稼働)
多治見市、中津川市の拠点を統合した東濃地区の営業拠点。年間約140万ケースを取り扱う。

近物レックス株式会社(平成22年10月稼働)
日用雑貨を全国に向けて梱包・配送している。

株式会社山森土本鉱業所(平成23年2月稼働)
半導体やガラスの原料となる高純度ケイ石粉末を製造する。進出した企業では唯一の市内事業所。

日本ボデーパーツ工業株式会社(平成24年5月稼働)
大塚に本社を構える昭和21年創業の自動車ボディ材料および部品、カー用品の総合商社。

土岐プラズマリーサーチパーク

東海西濃運輸株式会社(平成22年1月稼働)
各種貨物輸送を展開。土岐・多治見両市にあった営業所を移転統合し、本社機能も移転。

土岐南テクノヒルズ

Interview



豊生ブレーキ工業(株)
総務部人事室
室長
佐藤宏之さん

自然と共生～森と水の
ときめき土岐工場



豊生ブレーキ工業(株)
土岐管理部管理室
管理グループ リーダー
鈴木将浩さん

地元従業員で力を合わせ
工場を盛り上げています

トヨタグループのアイシン精機(株)を核としたアイシングループの1社として、自動車部品の生産を行っています。土岐市への工場建設は、東海環状自動車道と中央自動車道という2系統の高速道路が交差し、本社のある豊田市と短時間で移動でき、納入体制・既存拠点との輸送体制を考え、決定しました。土岐工場の従業員の大半は東濃地域の方です。これからも状況を見て、地元からも継続して採用したいと考えています。

工場が進出した時からここで働いています。管理グループとして、本社の人事や総務のサポート、土岐工場の窓口が主な業務です。勤め先が市内にあると、遠くまで通わなくても、車で10分程度で通勤できる点は魅力的です。土岐工場の従業員は、進出の際に採用した地元の方が多いので、自分たちで明るく楽しい工場を作り上げようと、力を合わせています。